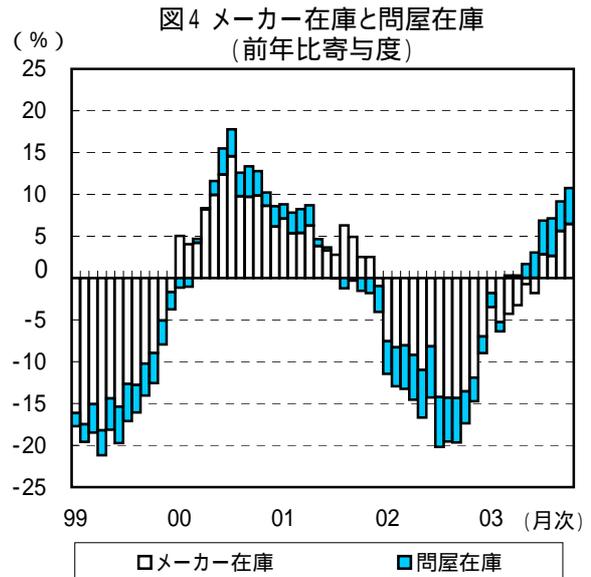
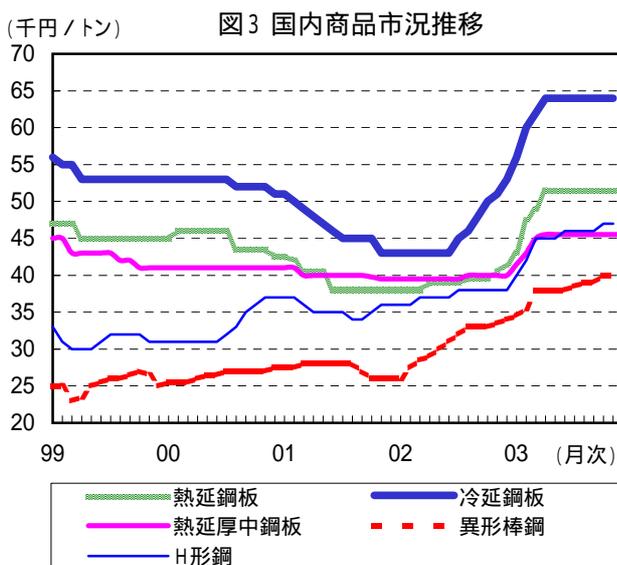
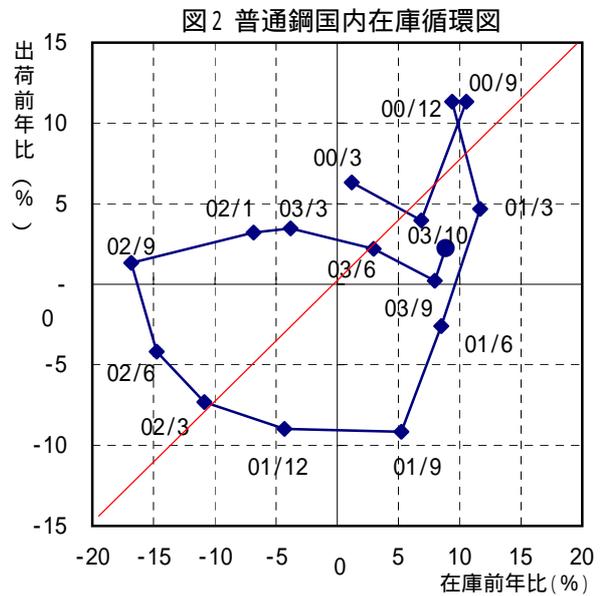
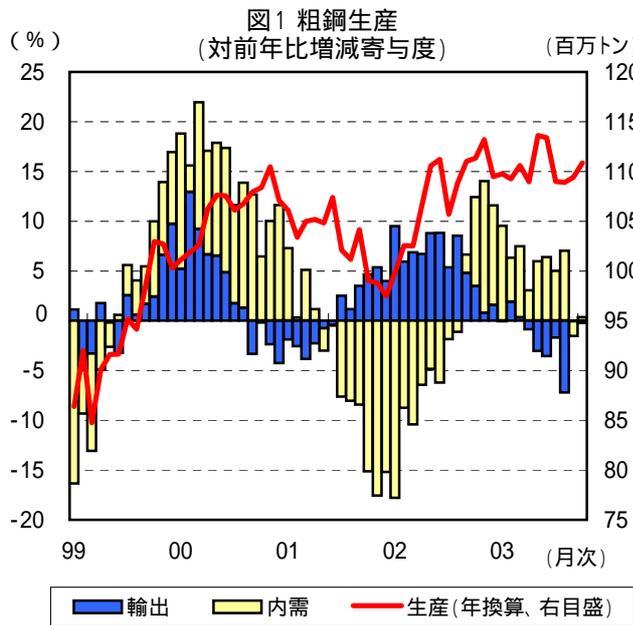


在庫からみた鉄鋼業界の現況

- ・最近の粗鋼生産は、過去最高であった1990年並の年換算1.1億トンペースと高水準で推移している。一方、在庫についても増加傾向にあり、在庫循環では既に在庫積み上がり局面に入っている。
- ・従来であれば、高水準の生産と在庫の増加は市況悪化をもたらしていたが、今回はその兆しがみられないという点で従来と異なっている。この背景には鉄鋼業界の構造変化がある。第一は、昨今の業界再編によるメーカーの価格交渉力の強化と価格重視戦略の徹底である。第二は、中国市場の急速な拡大に伴う輸出の急増と輸出採算の大幅向上であり、輸出は国内需給の調整弁から収益源に変容している。以上の結果、従来に比べ国内在庫が市況圧力となりにくくなっている。
- ・今回の在庫増加を仔細にみると、問屋在庫の増加が全体を押し上げるという動きを示しているが、これはまさに構造変化によって市況の先高感が形成され、流通段階で仮需が発生したためである。
- ・但し、市況は弱含みとなる気配はないものの、メーカーサイドは今まで以上に需給を注視しており、薄板中心に供給を絞り込んでいる模様である。



(備考) 日本鉄鋼連盟「鉄鋼需給統計月報」、鉄鋼新聞社「鉄鋼新聞」により作成。

[調査部(産業・環境調査担当) 國見 寛通]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp